

2 求められる校種間の連携

小学校から高等学校に至る外国語教育には、前述の、外国語を用いて「生きる力」を育てる、という目標に加え、授業をコミュニケーションの場と捉え、十分に言語活動を行う、という指導方針も貫かれています。

ここでは、外国語教育の目標を達成するために必要な要素を、小学校から高等学校に至るまで継続して育てるものと、段階的に発展させていくものに分けて示します。

(1) 継続して育てるもの

ア コミュニケーションに対する積極的な態度

子どもの中に、人と関わることを魅力的だと感じる気持ちを育て、それを「相手への思いやり」へとつなげていきます。

イ 協調性・寛容性

外国語の音声・リズムに触れたり、異文化を体験したり、日本語や日本の文化への理解を深めたりする中で、「異(い)なるもの」に対する協調性や寛容性を培っていきます。

ウ 生涯学習に取り組む姿勢

「世界中の人とつながることができる」という外国語の可能性に気づき、外国語を学ぶことの楽しさを実感し、外国語の学び方を習得できるよう支援していきます。

(2) 段階的に発展させるもの

ア 4技能の総合的運用能力

小学校段階の「音声によるコミュニケーション」が、文字による情報のやり取りを含めた「4技能の総合的な運用」を目指す中学校、より高度な内容を扱う高等学校へと引き継がれていきます。

イ 発信力

小学校では、主に自分のことを伝え合いますが、中学校からは、客観的事実や抽象的概念も表現しなくてはなりません。さらに高等学校では、「英語表現」という科目を設定し、論理の展開や表現の方法の工夫による発信力の向上を目指しています。

ウ 正確さ・適切さ

活動が「対面コミュニケーション」に限定されている小学校とは異なり、中学校以降は、あらゆる形態のコミュニケーションを扱います。これに伴い、手段として用いる外国語の「正確さ・適切さ」を、徐々に強く求めていきます。